

## カルテット・アロド

Quatuor Arod

ジョルダン・ヴィクトリア（ヴァイオリン） Jordan Victoria, Violin

アレクサンドル・ヴ（ヴァイオリン） Alexandre Vu, Violin

タンギー・パリソ（ヴィオラ） Tanguy Parisot, Viola

サミー・ラシド（チェロ） Samy Rachid, Cello

2013年結成。マチュー・ヘルツォク（元エベヌ弦楽四重奏団ヴィオラ奏者）、ジャン・シュレム（元ロザムンデ四重奏団ヴィオラ奏者）に師事。また、アルテミス・カルテット、エベヌ弦楽四重奏団、ディオティマ弦楽四重奏団の指導も受けている。

2014年FNAPECヨーロッパ・コンクール第1位、15年ニールセン国際室内楽コンクールでは第1位ならびにカール・ニールセン賞および新作演奏賞を受賞、さらに16年ミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、大きな注目を集めた。また、17年イギリスBBCラジオ3の「ニュー・ジェネレーション・アーティスト」に選出される他、18年にはドイツ・エコー賞クラシック部門で新人賞を受賞。

フィルハーモニー・ド・パリ、ルーヴル美術館オーディトリウムをはじめとするフランスのコンサートホール、ロンドンのウィグモア・ホールおよびバービカンセンター、ブリュッセルのパレ・デ・ボザール、ザルツブルク・モーツァルテウム、ウィーンのコツェルトハウスおよび楽友協会、アムステルダム・コンセルトヘボウ、チューリッヒ・トーンハレ、ベルリン・フィルハーモニー、エルプフィルハーモニー・ハンブルク、ストックホルム・コンサートホール、そしてカーネギーホールをはじめとする欧米の主要コンサートホールの多くに出演。また、ヴェルビエ、モントルー、エクサン・プロヴァンス、サロン・ド・プロヴァンス、フォル・ジュルネ、パブロ・カザルス、ハイデルベルク、ラインガウ、メクレンブルク＝フォアポンメルン、ブレーメン、ヴェルツブルク・モーツァルト音楽祭、プラハの春を含む著名国際音楽祭に招かれている。初来日は2017年。王子ホール他で公演を行った。

アミハイ・グロス、アントワン・タメスティを含むヴィオラ奏者、エリック・ル・サージュ、アレクサンドル・タロー、アダム・ラルームといったピアニスト、マーティン・フロストをはじめとするクラリネット奏者、ラファエル・ピドゥー、フランソワ・サルク、ジェローム・ペルノー、ブルーノ・フィリップなどのチェロ奏者と共演。

2017年エラート（ワーナークラシックス）と長期専属契約を結び、メンデルスゾーン作品のアルバムでCDデビュー。19年秋、シェーンベルク、ツェムリンスキー、ウェーベルンの作品を収録した最新アルバムをリリース。

カルテット・アロドはメセナ・ミュージカル・ソシエテ・ジェネラルをはじめとする複数の団体、地域から支援を受けている。衣装提供は“Blandin & Delloye”。